

# 確率解析レポート

基礎工学研究科システム創成専攻修士 1 年

学籍番号 29C17095

百合川尚学

2017 年 7 月 24 日

以下に定義する Brown 運動が存在する確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  を基礎に考える.

**定義 (Brown 運動の講義における定義 (講義資料引用)).**  $\mu$  を  $\mathbb{R}^N$  上の分布 (i.e. Borel 確率測度) とする. 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  上の  $\mathbb{R}^N$ -値確率過程  $B = (B_t)_{t \geq 0}$  で以下を満たすものを, 初期分布  $\mu$  の  $N$  次元 Brown 運動という. とくに,  $\mu$  が  $x \in \mathbb{R}^N$  の Dirac 測度  $\delta_x$  のとき,  $B$  は  $x$  から出発する  $N$  次元 Brown 運動と呼ばれる.

- (i) 任意の  $\omega \in \Omega$  に対して,  $[0, \infty) \ni t \mapsto B_t(\omega) \in \mathbb{R}^N$  は連続.
- (ii) 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $B_t - B_s$  は  $\mathcal{F}_s^B = \sigma(B_u : u \leq s)$  と独立.
- (iii) 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $B_t - B_s$  は平均ベクトル  $0$ , 共分散行列  $(t-s)I_N$  の  $N$  次元 Gauss 型確率変数である. ここで  $I_N$  は  $N$  次元単位行列を表す.
- (iv)  $P_{B_0} = \mu$ .

**定義 (Gauss 型確率変数 (講義資料引用)).**  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  上の  $\mathbb{R}^N$  値確率変数  $X$  が平均ベクトル  $0$ , 共分散行列  $(t-s)I_N$  の Gauss 型確率変数とは, 任意の  $0 \leq s < t$  と  $E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$P(X \in E) = (2\pi(t-s))^{-\frac{N}{2}} \int_E \exp\left(-\frac{|x|^2}{2(t-s)}\right) dx$$

が成り立つことである. ここで記号  $dx$  は  $N$  次元 Lebesgue 測度による積分の記号を表し,  $x = {}^t(x_1, \dots, x_N) \in \mathbb{R}^N$  に対して  $|x| = \sqrt{x_1^2 + \dots + x_N^2}$  とする.

## 1 レポート課題その 1

定理 3.8 の Brown 運動の性質 (1), (2), (3) を示せ.

(定理 3.8).  $B = (B_t)$  を原点から出発する  $N$ -次元 Brown 運動とすると, いかが成り立つ.

- (1) (回転不変性) 任意の  $R \in O(N)$  に対して  $RB = (RB_t)$  は原点から出発する Brown 運動である. ただし,  $O(N)$  は  $N$  次直交行列全体で  $Rx$  はベクトル  $x$  に左から行列  $R$  をかけることを意味する.
- (2) (スケール則) 任意の  $c > 0$  に対して  $((1/\sqrt{c})B_{ct})$  は原点から出発する Brown 運動である.
- (3) 任意の  $h > 0$  に対して  $(B_{t+h} - B_h)$  は原点から出発する Brown 運動である.
- (4)  $B$  の各座標が定める実数値確率過程を  $B_i = (B_i(t))$  ( $i = 1, 2, \dots, N$ ) とすると,  $B_i$  ( $i = 1, 2, \dots, N$ ) は独立な 1 次元 Brown 運動である. 逆に, 独立な 1 次元 Brown 運動  $B_i$  ( $i = 1, 2, \dots, N$ ) が与えられたとき  $B(t) = {}^t(B_1(t), \dots, B_N(t))$  とおくと  $(B(t))$  は  $N$  次元 Brown 運動である.

**証明.**

- (1) 上に載せた定義の番号の順番に照合していく. (i) について, 任意の  $N$  次直交行列  $R$  は, 通常の Euclid ノルムの入ったノルム空間  $\mathbb{R}^N$  (通常の位相空間としての  $\mathbb{R}^N$  に同じ) において

$\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の有界な線型作用素である．即ち  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の連続写像であり，連続写像の合成である

$$[0, \infty) \ni t \mapsto RB_t(\omega) \in \mathbb{R}^N, \quad (\forall \omega \in \Omega)$$

もまた連続写像であるから，(i) は満たされている．次に (ii) を示す． $\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  は  $\mathbb{R}^N$  の Borel 集合族を表すとする．まずは任意の  $t \leq 0$  に対して

$$\{(RB_t)^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} = \{B_t^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} \quad (1)$$

が成り立つことを示す．これは次の理由による．任意の  $N$  次直交行列  $R$  は，通常の Euclid ノルムの入ったノルム空間  $\mathbb{R}^N$  において  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の有界な線型作用素である．即ち  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の連続写像であり，任意の Borel 集合  $E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  を  $\mathbb{R}^N$  の Borel 集合に引き戻す．また  $R$  が  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の全単射であること (全射，単射であることは  $R$  の正則性により示される，つまり任意の  $y \in \mathbb{R}^N$  に対して  $Rx = y$  を満たすような  $x$  は  $R^{-1}y$  であり， $Rx = Ry$  ならば  $R(x - y) = 0$  の両辺に  $R^{-1}$  をかけて  $x = y$  が出る．) と  $\mathbb{R}^N$  の完備性により関数解析の値域定理が適用され， $R$  の逆写像  $R^{-1}$  もまた  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の有界な線型作用素である．従って任意の Borel 集合の  $R$  による像は  $\mathbb{R}^N$  の Borel 集合となる．以上より任意の Borel 集合  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$\begin{aligned} (RB_t)^{-1}(A) &= B_t^{-1}(R^{-1}(A)) \in \{B_t^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\}, \\ B_t^{-1}(A) &= B_t^{-1}(R^{-1}(R(A))) \in \{(RB_t)^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} \end{aligned}$$

が示され，式 (1) が成り立つと判る．従って

$$\sigma(B_u : u \leq s) = \bigvee_{u \leq s} \{B_u^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} = \bigvee_{u \leq s} \{(RB_u)^{-1}(E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} = \sigma(RB_u : u \leq s)$$

が成り立つ．任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $B_t - B_s$  は  $\mathcal{F}_s^B = \sigma(B_u : u \leq s)$  と独立であるから，任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  と  $F \in \sigma(RB_u : u \leq s) = \sigma(B_u : u \leq s)$  に対して， $R^{-1}(A) \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に注意すれば

$$\begin{aligned} P(\{RB_t - RB_s \in A\} \cap F) &= P(\{R(B_t - B_s) \in A\} \cap F) \\ &= P(\{B_t - B_s \in R^{-1}(A)\} \cap F) \\ &= P(B_t - B_s \in R^{-1}(A)) P(F) \\ &= P(R(B_t - B_s) \in A) P(F) = P(RB_t - RB_s \in A) P(F) \end{aligned}$$

が成り立つ．これは任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $RB_t - RB_s$  と  $\sigma(RB_u : u \leq s)$  とが独立であることを表しているから，(ii) も示されたことになる．(iii) について，行列式  $\det(R)$  が  $\pm 1$  になることに注意すれば，任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$\begin{aligned} P(RB_t - RB_s \in A) &= P(B_t - B_s \in R^{-1}(A)) \\ &= (2\pi(t-s))^{-\frac{N}{2}} \int_{R^{-1}(A)} \exp\left(-\frac{|x|^2}{2(t-s)}\right) dx \\ &= (2\pi(t-s))^{-\frac{N}{2}} \int_A \exp\left(-\frac{|y|^2}{2(t-s)}\right) dy \quad (y = Rx \text{ として変数変換}) \end{aligned}$$

が成り立つことにより, 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $RB_t - RB_s$  もまた平均ベクトル  $0$ , 共分散行列  $(t-s)I_N$  の  $N$  次元 Gauss 型確率変数であることが示された. 最後に (iv) が満たされていることを確認する. 全単射線型写像  $R$  について  $0 \in A \Leftrightarrow 0 \in R^{-1}(A)$  ( $\forall A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$ ) であることに注意すれば

$$P_{RB_0}(A) = P(B_0^{-1}(R^{-1}(A))) = \begin{cases} 1 & 0 \in R^{-1}(A) \\ 0 & 0 \notin R^{-1}(A) \end{cases} = \begin{cases} 1 & 0 \in A \\ 0 & 0 \notin A \end{cases}$$

となり,  $P_{RB_0}$  と  $\delta_0$  は  $\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  の上で一致する.

- (2) 上に載せた定義の番号の順番に照合していく. (i) について, これも連続写像の合成

$$[0, \infty) \ni t \mapsto ct \mapsto \frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct}(\omega) \in \mathbb{R}^N, \quad (\forall \omega \in \Omega)$$

と見做せばよい. (ii) について, (i) と同様に考えればよい. 写像  $\mathbb{R}^N \ni x \mapsto x/\sqrt{c} \in \mathbb{R}^N$  は  $\mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  の連続な全単射であり, 明らかに逆写像  $\mathbb{R}^N \ni x \mapsto \sqrt{c}x \in \mathbb{R}^N$  もまた連続な全単射である. 従って任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$\frac{1}{\sqrt{c}}A := \{x/\sqrt{c} \mid x \in A\} \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N), \quad \sqrt{c}A := \{\sqrt{c}x \mid x \in A\} \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$$

が成り立つから, 任意の  $t \geq 0$  に対して

$$\left\{ \frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct} \in A \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N) \right\} = \left\{ B_{ct} \in A \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N) \right\}$$

が成り立つ. 即ち任意の  $s \geq 0$  に対して

$$\sigma\left(\frac{1}{\sqrt{c}} B_{cu} : u \leq s\right) := \bigvee_{u \leq s} \left\{ \frac{1}{\sqrt{c}} B_{cu} \in A \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N) \right\} = \bigvee_{u \leq s} \left\{ B_{cu} \in A \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N) \right\} = \sigma(B_{cu} : u \leq s)$$

となっていて, さらに設問の仮定により任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $B_{ct} - B_{cs}$  は  $\sigma(B_{cu} : u \leq s)$  と独立である. 以上より, 任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  と  $F \in \sigma\left(\frac{1}{\sqrt{c}} B_{cu} : u \leq s\right) = \sigma(B_{cu} : u \leq s)$  に対して

$$\begin{aligned} P\left(\left\{ \frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct} - \frac{1}{\sqrt{c}} B_{cs} \in A \right\} \cap F\right) &= P\left(\left\{ B_{ct} - B_{cs} \in \sqrt{c}A \right\} \cap F\right) \\ &= P\left(B_{ct} - B_{cs} \in \sqrt{c}A\right) P(F) \\ &= P\left(\frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct} - \frac{1}{\sqrt{c}} B_{cs} \in A\right) P(F) \end{aligned}$$

が成り立つから, 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $\frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct} - \frac{1}{\sqrt{c}} B_{cs}$  は  $\sigma\left(\frac{1}{\sqrt{c}} B_{cu} : u \leq s\right)$  と独立であると示された. (iii) について, これもヤコビアンが  $(\sqrt{c})^N$  になることに注意すれば

$$\begin{aligned} P\left(\frac{1}{\sqrt{c}} B_{ct} - \frac{1}{\sqrt{c}} B_{cs} \in A\right) &= P\left(B_{ct} - B_{cs} \in \sqrt{c}A\right) \\ &= (2\pi(ct - cs))^{-\frac{N}{2}} \int_{\sqrt{c}A} \exp\left(-\frac{|x|^2}{2(ct - cs)}\right) dx \\ &= (2\pi(t - s))^{-\frac{N}{2}} \int_A \exp\left(-\frac{|y|^2}{2(t - s)}\right) dy \quad \left(y = \frac{1}{\sqrt{c}}x \text{ と変数変換}\right) \end{aligned}$$

が成り立つことにより, 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $\frac{1}{\sqrt{c}}B_{ct} - \frac{1}{\sqrt{c}}B_{cs}$  は平均ベクトル  $0$ , 共分散行列  $(t-s)I_N$  の  $N$  次元 Gauss 型確率変数である. 最後に (iv) を示す. 任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して  $0 \in A \Leftrightarrow 0 \in \sqrt{c}A$  であることに注意すれば,

$$P_{\frac{1}{\sqrt{c}}B_0}(A) = P(B_0^{-1}(\sqrt{c}A)) = \begin{cases} 1 & 0 \in \sqrt{c}A \\ 0 & 0 \notin \sqrt{c}A \end{cases} = \begin{cases} 1 & 0 \in A \\ 0 & 0 \notin A \end{cases}$$

が成り立つから  $P_{\frac{1}{\sqrt{c}}B_0}$  と  $\delta_0$  は  $\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  の上で一致する.

- (3) 定義の (i) から見ていく.  $B = (B_t)$  が Brown 運動であるならば

$$[0, \infty) \ni t \mapsto B_{t+h}(\omega) - B_h(\omega) \in \mathbb{R}^N, \quad (\forall \omega \in \Omega)$$

が連続写像であることは明らかである. 次に (ii) を確認する. 任意の  $t \geq 0$  に対して  $B_{t+h}$  は可測  $\mathcal{F}_{t+h}^B/\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$ ,  $B_h$  は可測  $\mathcal{F}_h^B/\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  であって,  $\mathcal{F}_h^B \subset \mathcal{F}_{t+h}^B$  により  $B_{t+h} - B_h$  は可測  $\mathcal{F}_{t+h}^B/\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  である. 従って

$$\{(B_{t+h} - B_h)^{-1}(A) \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} \subset \mathcal{F}_{t+h}^B = \sigma(B_u : u \leq t+h)$$

が成り立つ. 明らかに

$$\sigma(B_{u+h} - B_h : u \leq s) = \bigvee_{u \leq s} \{(B_{u+h} - B_h)^{-1}(A) \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\} \subset \sigma(B_u : u \leq s+h)$$

が成り立っている. 従って任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  と  $F \in \sigma(B_{u+h} - B_h : u \leq s) \subset \sigma(B_u : u \leq s+h)$  に対して

$$\begin{aligned} P(\{(B_{t+h} - B_h) - (B_{s+h} - B_h) \in A\} \cap F) &= P(\{B_{t+h} - B_{s+h} \in A\} \cap F) \\ &= P(B_{t+h} - B_{s+h} \in A) P(F) \\ &= P((B_{t+h} - B_h) - (B_{s+h} - B_h) \in A) P(F) \end{aligned}$$

となるから, 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $(B_{t+h} - B_h) - (B_{s+h} - B_h)$  は  $\sigma(B_{u+h} - B_h : u \leq s)$  と独立であることが示された. (iii) について, 任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$\begin{aligned} P((B_{t+h} - B_h) - (B_{s+h} - B_h) \in A) &= P(B_{t+h} - B_{s+h} \in A) \\ &= (2\pi((t+h) - (s+h)))^{-\frac{N}{2}} \int_A \exp\left(-\frac{|x|^2}{2((t+h) - (s+h))}\right) dx \\ &= (2\pi(t-s))^{-\frac{N}{2}} \int_A \exp\left(-\frac{|x|^2}{2(t-s)}\right) dx \end{aligned}$$

が成り立つから, 任意の  $0 \leq s < t$  に対して  $(B_{t+h} - B_h) - (B_{s+h} - B_h)$  は平均ベクトル  $0$ , 共分散行列  $(t-s)I_N$  の  $N$  次元 Gauss 型確率変数であると示された. 最後に (iv) を確認する. 便宜上  $Y_t := B_{t+h} - B_h$  ( $\forall t \geq 0$ ) と表記する.  $t = 0$  の場合  $\Omega$  上で  $Y_0 = 0$  が成り立っているから, 任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  に対して

$$P_{Y_0}(A) = P(Y_0^{-1}(A)) = \begin{cases} 1 & 0 \in A \\ 0 & 0 \notin A \end{cases}$$

となり,  $Y_0$  の分布は  $\mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$  上で  $\delta_0$  に一致する. ■

- (4) 一般に  $N$  次元実確率変数  $X = (X_1, \dots, X_N)$  の各成分も 1 次元実確率変数である．これは射影を考えればよい． $B = (B_i(t))$  ( $i = 1, \dots, N$ ) が  $N$  次元 Brown 運動であるとする．写像  $pr_i : \mathbb{R}^N \mapsto \mathbb{R}^1$  ( $i = 1, \dots, N$ ) を  $i$  射影とすると，各  $i = 1, 2, \dots, N$  について，任意の  $0 \leq s < t$  と  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  に対して

$$\begin{aligned}
P(B_i(t) - B_i(s) \in A) &= P(pr_i \circ (B(t) - B(s)) \in A) \\
&= P(B(t) - B(s) \in pr_i^{-1}(A)) \\
&= (2\pi(t-s))^{-\frac{N}{2}} \int_{pr_i^{-1}(A)} \exp\left(-\frac{|x|^2}{2(t-s)}\right) dx \\
&= \frac{1}{\sqrt{2\pi(t-s)}} \int_A \exp\left(-\frac{x_i^2}{2(t-s)}\right) dx_i \prod_{j \neq i} \left( \frac{1}{\sqrt{2\pi(t-s)}} \int_{\mathbb{R}^1} \exp\left(-\frac{x_j^2}{2(t-s)}\right) dx_j \right) \\
&= \frac{1}{\sqrt{2\pi(t-s)}} \int_A \exp\left(-\frac{x_i^2}{2(t-s)}\right) dx_i
\end{aligned}$$

が成り立つ．これは Gauss 型確率変数の定義より  $B_i(t)$  ( $i = 1, 2, \dots, N$ ) がそれぞれ平均 0，分散  $t-s$  の 1 次元 Gauss 型確率変数であることを示している．代表として  $(B_1(t))_{t \geq 0}$  が 1 次元 Brown 運動であることを確認する．写像  $[0, \infty) \ni t \mapsto B_1(t) \in \mathbb{R}^1$  が連続写像であることは明らかである．(ii) について，任意の  $s$  と  $u \leq s$  と  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  について

$$(B_1(u) \in A) = (B(u) \in pr_1^{-1}(A)), \quad pr_1^{-1}(A) \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)$$

であることに注意して

$$\mathcal{F}_s^1 := \bigvee_{u \leq s} \{(B_1(u) \in A) \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)\} \subset \bigvee_{u \leq s} \{(B(u) \in E) \mid E \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^N)\}$$

と  $\mathcal{F}_s^1$  を定義する．任意の  $0 \leq s < t$ ， $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  と  $F \in \mathcal{F}_s^1$  に対して

$$\begin{aligned}
P(\{B_1(t) - B_1(s) \in A\} \cap F) &= P(\{B(t) - B(s) \in pr_1^{-1}(A)\} \cap F) \\
&= P(B(t) - B(s) \in pr_1^{-1}(A)) P(F) \\
&= P(B_1(t) - B_1(s) \in A) P(F)
\end{aligned}$$

が成り立つ．これは任意の  $0 \leq s < t$  について  $(B_1(t) - B_1(s))$  が  $\mathcal{F}_s^1$  と独立であることを示している．(iv) を確認する．任意の  $A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  に対して  $0 \in A \Leftrightarrow 0 \in pr_1^{-1}(A)$  (両辺で 0 の次元は違う) に注意すれば

$$P(B_1(0) \in A) = P(B(0) \in pr_1^{-1}(A)) = \begin{cases} 1 & 0 \in pr_1^{-1}(A) \\ 0 & 0 \notin pr_1^{-1}(A) \end{cases} = \begin{cases} 1 & 0 \in A \\ 0 & 0 \notin A \end{cases}$$

が成り立つ．これは  $B_1(0)$  の分布と 1 次元 Dirac 分布  $\delta_0$  が  $\mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  上で一致することを示す．最後に  $(B_i(t))_{i=1}^N$  が独立な確率変数の族であることを示す． $0 \leq i_1 < i_2 < \dots < i_n \leq N$  として任意に  $n$  個 ( $n$  も任意) の確率変数  $(B_{i_j}(t))_{j=1}^n$  を取る． $F_{i_j} \in \mathcal{F}_t^{i_j}$  ( $j = 1, 2, \dots, n$ ) を取れば，

各  $F_{i_j}$  は或る  $A_{i_j} \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^1)$  によつて  $F_{i_j} = (B_{i_j}(t) \in A_{i_j})$  と表現されるから,

$$\begin{aligned} \mathbf{P}(F_{i_1} \cap F_{i_2} \cap \cdots \cap F_{i_n}) &= \mathbf{P}((B_{i_1}(t) \in A_{i_1}) \cap \cdots \cap (B_{i_n}(t) \in A_{i_n})) \\ &= \mathbf{P}(B(t) \in pr_{i_1}^{-1}(A_{i_1}) \cap \cdots \cap pr_{i_n}^{-1}(A_{i_n})) \\ &= \prod_{j=1}^n \frac{1}{\sqrt{2\pi(t-s)}} \int_{A_{i_j}} \exp\left(-\frac{x_{i_j}^2}{2(t-s)}\right) dx_{i_j} \\ &= \mathbf{P}(F_{i_1}) \mathbf{P}(F_{i_2}) \cdots \mathbf{P}(F_{i_n}) \end{aligned}$$

によつて  $(B_i(t))_{i=1}^N$  の独立性が示された. 次に

## 2 レポート課題その2

$N$  を正整数,  $x = (x_1, \dots, x_N) \in \mathbb{R}^N$  に対して,  $|x| = \sqrt{x_1^2 + \dots + x_N^2}$  で Euclid のノルムを定義する.  $B^x = (B^x(t))_{t \geq 0}$  を  $x$  から出発する  $N$ -次元  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動とし,  $\sigma$  を  $(\mathcal{F}_t)$ -停止時間とする, このとき, 次の (1), (2), (3) に回答せよ.

- (1)  $|B_x|^2 = (|B^x(t)|^2)_{t \geq 2}$  はクラス (DL) に属する sbMG であることを示し, その Doob-Meyer 分解を求めよ.